一年間の振り返りと

「臼杵市の未来」について

臼杵市地域力創生課

変化していく地域を支えるための多職種・多機関での「参画と協働」のさらなる強化

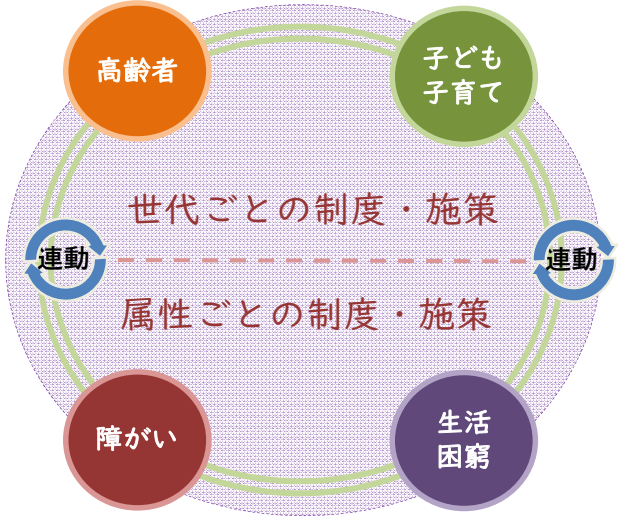
○ 人口減少、少子高齢化に伴う生産年齢人口の急減は避けられず、社会や価値観等の変化に伴って個人や世帯が抱えやすくなっている複合化・複雑化した課題への支援ニーズに対応し続けるための体制整備が急務と言える。

○ 世代や属性ごとに整えられてきた制度を延伸していくことには限界があり、これまで以上に多機関・多職種や地域コミュニティの協働体制を強化することで持続可能な支援体制の構築を目指していく。→「困窮」という状態に、よりフォーカスしていく

○ 専門分野や職種等の立場を超え、臼杵市の現状を捉えて将来を見据えながら、一緒に考えていくプロセスを共有（参画と協働）できるプラットフォームを形成する。

多機関・多職種連携のイメージ

個人や世帯を取り巻く
環境に働きかけるための
分野横断的な協働体制



求められる連携	取組の方向性
地域課題の共有	各分野が抱えている課題や活用できる資源等について、分野横断的に把握する。また、把握した情報を地域や団体等にフィードバックしていく。（人材の育成と確保、地域への働きかけ）
事例検討の実施	複合化・複雑化した課題についての事例を検討し、個人や世帯を支えていくためのスキルアップに取り組む。
支援機関のネットワーク化（関係性の構築）	どこに相談があっても必要な支援につながる体制を目指すとともに、支援者支援を重視し、分野横断的な支援の展開を目指す。（支援者の負担軽減、災害等への備え）
支援関係者の拡張（情報共有・発信の効率化）	地域住民や民間企業など支援関係者を増やしていけるようアプローチの方策検討や情報等のフィードバック等を展開していく。（チームビルディング、政策形成の効率化）
デジタル化に向けた取組	専門職の人材不足を補うため、効率的な支援を提供するためのデジタル化を推進する。（メールやSNS等の活用、対外的なプロモーション）

令和４～６年度「うすきプラットフォーム」について

○ このプラットフォームは、分野を超えた多機関・多職種の支援関係者が集い、臼杵市の課題を全体で共有しながら、方向性をともにし、さらなる円滑な関係づくりをめざし、令和4年度から開催しています。

○ 制度の枠組み等を超え、「どこに相談しても、適切な支援につながる体制づくり」をめざし、課題の共有、ネットワーク強化、対応力の強化、支援関係者の拡張等を推進しています。

【臼杵市社協ホームページ】

令和4年度	
4月	趣旨説明
5月	ヤングケアラー
6月	地域コミュニティ
7月	事例検討会
8月	障がい(児)者支援
9月	高齢者支援
10月	医療とヘルスアップ
11月	若者サポートと困窮者施策
12月	消費者被害と成年後見
1月	子ども・子育て支援
2月	孤独・孤立対策
3月	次年度について

令和5年度	
4月	趣旨説明
5月	人口動態と暮らしの変化
6月	人材不足へのアプローチ
7月	子どもが子どもでいられるまちに
8月	うすきの強みを考える
9月	こどもまんなか社会
10月	防災重層的な支援体制の整備
11月	免許返納
12月	重層的な支援体制の整備
1月	地域コミュニティとの協働
2月	民間企業との協働
3月	次年度について

令和６年度	
4月	趣旨説明
5月	事例検討（子ども子育て）
6月	南海トラフ地震への備え
7月	事例検討（障がい）
8月	居住支援
9月	事例検討（医療）
10月	移住・定住施策
11月	事例検討（生活困窮）
12月	ー
1月	地域住民による移動支援
2月	事例検討（高齢者）
3月	こころと身体

令和７年度 うすきプラットフォームの年間スケジュールについて

○ 本プラットフォームは、令和4年4月より分野を超えた多機関・多職種の支援関係者が集っており、臼杵市の課題を共有しながら方向性をともにすることにより、どこに相談があっても必要な支援につながっていく支援体制の整備をめざして開催しています。

○ また、このプラットフォームで共有した情報については、臼杵市社会福祉協議会のホームページにおいて概要や資料等を共有し、参加者が所属する機関等で内部共有することによって周知を図ります。

【臼杵市社協ホームページ】

日時	内容（案）
令和７年 4月22日（火）15時～	令和７年度うすきプラットフォームについて
令和７年 5月20日（火）15時～	地域の課題「子ども子育て」
令和７年 6月23日（月）15時～	地域の課題「孤独・孤立」
令和７年 7月29日（火）15時～	地域の課題「障がい」
令和７年 8月20日（水）15時～	地域の課題「居住」
令和７年 9月22日（月）15時～	地域の課題「医療」
令和７年10月23日（木）15時～	地域の課題「高齢化」
令和７年11月18日（火）15時～	地域の課題「生活困窮」
令和７年12月17日（水）15時～	地域の課題「移動」
令和８年 1月19日（月）15時～	地域の課題「健康（ヘルスアップ）」
令和８年 2月16日（月）15時～	地域の課題「包括的な支援体制の整備」
令和８年 3月24日（火）15時～	一年間の振り返りと「臼杵市の未来」

令和７年度 うすきプラットフォームの振り返り

○地域の現状

・単身世帯や高齢単身者の増加や平均世帯員数の低下等から、孤独・孤立が構造的に増えうる

・つどいの場等に「出てこない人」などの潜在化が課題

・若者や子どもの課題が見えにくく、情報が共有されにくい

・住まいに関する課題が、福祉課題を増幅している

・地域で起こっている課題を早期に専門職につなぐことが難しい

・困りごとは地域に存在しているので、「どこに・いつ・どうやってつなぐか」が運用のボトルネックになっている

・地域課題の中に、「コミュニティの課題」、「支援者の課題」、「行政の課題」が含まれ、明確な切り分けは困難

・早期発見のため、小さな変化やSOSを周囲が拾っていく

・地域とのつながりが安心感につながることの周知を行う

○あらためて共有すべき事項

・課題が複合的になり、単一制度の枠に収まらない

・分野をまたぐ支援者同士の連携基盤づくりが重要

・医療や介護のリスクだけでなく、予防、住まい、生活支援を一体的に整える必要

・支援が必要な人ほど、制度や相談窓口へのアクセスしずらい

・地域で暮らし続けるための「支援の総合化」が必要

・ヤングケアラーなど、福祉・教育・医療・地域がつながり、アウトリーチ型で支える体制が必要

・住まいが不安定になると、医療・就労・子育て等の課題が一気に悪化する

・成年後見や消費者被害等、権利擁護の必要性が高まっている

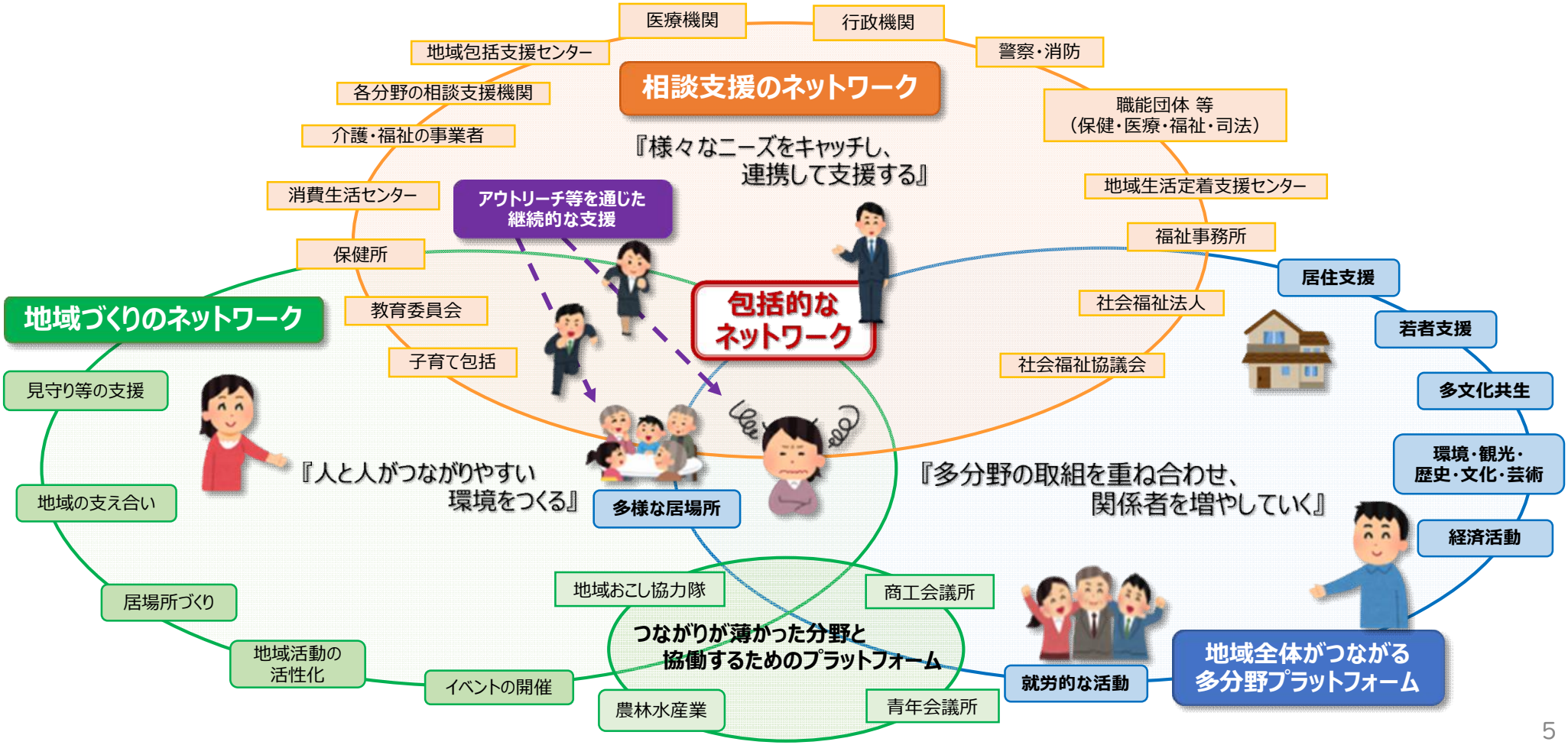
・移動の課題が顕在化しているため、イベント型、集い型に加え、出張型や送迎等の工夫が必要

・防災の観点から、平時からの「地域のつながり」が重要

・人材不足への対応が必要

・一時的な住まい（シェルター等）の確保が必要

令和８年度「暮らしを支える包括的なネットワーク」の構築について（イメージ）

○ 地域での暮らしにおける複雑化・複合化した課題を支えるため、以下のような暮らしを支える包括的なネットワークの構築が求められます。
- 分野を超えて、より円滑な連携が可能な「多機関・多職種による相談支援のネットワーク」
- 日々のつながりの中で、地域における課題が深刻化するまえに早期に発見・対応し、安心して暮らせる「地域を豊かにするネットワーク」の充実
- 多機関・多職種と地域のネットワークとつながり、関係者を増やしつつ、あらゆる人の役割や活動の場を拡げる「地域全体がつながる多分野プラットフォーム」の構築

○ これまで各分野ごとに取り組んできた多様な取組を重ね合わせることにより、市町村全体がチームとして機能することは、多様な相談や支援の経路を拡張するとともに、暮らしにおける安心感を生み、地域全体の活性化にも好循環を生みます。